

< 四国 > 阿南工業高等専門学校

*****断り*****

図や一部文章は当該高専 HP 及び当該高専が作成する資料より引用

阿南工業高等専門学校 HP : <https://www.anan-nct.ac.jp/>

令和 2 年度学校要覧 :

<https://www.anan-nct.ac.jp/wp-content/uploads/2020/07/youran2020.pdf>

カレッジガイド :

https://www.anan-nct.ac.jp/wp-content/uploads/2020/07/College_Guide_2020.pdf

*アクセス(図は令和 2 年度学校要覧より引用)

〒774-0017 徳島県阿南市見能林町青木 2 6 5



* 特色

・昭和 38 年に創立

本科創造技術工学科には機械コース、電気コース、情報コース、建設コース、化学コース

の1学科5コースがある

- ・専攻科創造技術システムデザイン工学専攻には機械コースから進学可能な機械システムコース、電気コース及び情報コースから進学可能な電気電子情報コース、建設コースから進学可能な建設システムコース、化学コースから進学可能な応用科学コースの1専攻4コースがある

*教育目標・教育理念(一部文章は阿南高専HPより引用)

学校の目的

本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づいて深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(阿南工業高等専門学校学則第1条)

準学士課程の目的

学科における教育目的は、次のとおりとする。

創造技術工学科は、社会人・職業人として必要な一般教養と国際化対応能力、工学分野のものづくりに共通して必要な基礎的知識・技術と情報処理能力、核となる分野に関する知識・技術と他分野の専門知識を教授し、様々な産業分野で幅広い課題について解決あるいは対応できる人材の育成を目的とする。各コースの核となる知識・技術とは次のとおりとする。

- (1) 機械コースは、機械の力学、加工、材料及び制御に関する機械工学の知識と技術、機械システムの設計と製造で必要とされる実践的な知識と技術とする。
- (2) 電気コースは、電気エネルギーから電子情報通信に及ぶ電気電子工学の知識と技術、電気・電子回路の設計・製作・解析で必要とされる実践的な知識と技術とする。
- (3) 情報コースは、コンピュータを利用して制御を行うための計測・制御・情報工学の知識と技術、情報通信システムおよび制御システムの調査・分析・設計で必要とされる実践的な知識と技術とする。
- (4) 建設コースは、環境や情報の分野を融合した建設工学の知識と技術、構造物の建設や環境保全で必要とされる実践的な知識と技術とする。
- (5) 化学コースは、無機化学から有機化学に及ぶ材料や化学工学の知識と技術、材料開発、化学プラント開発、化学薬品製造で必要とされる実践的な知識と技術とする。

(阿南工業高等専門学校学則第7条の2)

専攻科課程の目的

専攻科は、学科における教育の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。専攻科課程を通して、核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち、その方法論・実践論を幅広い工学分野を対象として創造的に

活用できる可能性をもった技術者の育成を図る。各コースの核となる専門的知識と技術は、次のとおりとする。

- (1) 機械システムコースは、機械工学に関する研究課題を解決するために必要な力学、材料、生産・加工、設計、熱流体、機械力学・制御などの知識と情報収集、整理、研究遂行のための専門的知識と技術とする。
- (2) 電気電子情報コースは、電気電子工学、情報工学に関する研究課題を解決するために必要な電気回路、デジタル回路、ロボット制御、計測、プログラミングなどの知識と情報収集、整理、研究遂行のための専門的知識と技術とする。
- (3) 建設システムコースは、土木工学に関する研究課題を解決するために必要な構造・材料、地盤・水工・環境、計画・防災などの知識と情報収集、整理、研究遂行のための専門的知識と技術とする。
- (4) 応用化学コースは、応用化学に関する研究課題を解決するために必要な物理化学、無機化学、有機化学、分析化学、生物化学、化学工学などの知識と情報収集、整理、研究遂行のための専門的知識と技術とする。

(阿南工業高等専門学校学則第 29 条)

*3つのポリシー(一部文章は阿南高専 HP より引用)

本科

[ディプロマポリシー]

1. 育成する技術者像

核となる分野に関する確固たる知識をベースとして持ち、その方法論・実践力を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性を持った技術者

2. 達成すべき学修成果

準学士課程の学生は、卒業までに普遍的に有用性を持つ資質・能力、並びに、核となる分野に関する知識・技術と他分野の専門知識として、以下の学修成果を達成するものとする。

2-1. 普遍的に有用性を持つ能力 (全コース共通)

- (a) 社会人・職業人として必要な一般教養
- (b) 国際化対応能力
- (c) 工学分野のものづくりに共通して必要な基礎的知識・技術
- (d) 情報処理能力
- (e) 様々な産業分野の幅広い課題について解決あるいは対応できる能力

2-2. 専門分野に固有の知識・技術 (コース別)

(1) 機械コース

機械の力学，加工，材料及び制御に関する機械工学の知識と技術，機械システムの設計と製造で必要とされる実践的な知識と技術

(2) 電気コース

電気エネルギーから電子情報通信に及ぶ電気電子工学の知識と技術，電気・電子回路の設計・製作・解析で必要とされる実践的な知識と技術

(3) 情報コース

コンピュータを利用して制御を行うための計測・制御・情報工学の知識と技術，情報通信システム及び制御システムの調査・分析・設計で必要とされる実践的な知識と技術

(4) 建設コース

環境や情報の分野を融合した建設工学の知識と技術，構造物の建設や環境保全で必要とされる実践的な知識と技術

(5) 化学コース

無機化学から有機化学に及ぶ材料や化学工学の知識と技術，材料開発，化学プラント開発，化学薬品製造で必要とされる実践的な知識と技術

3. 卒業要件

準学士課程は，育成する技術者像を踏まえた学修成果を達成した上，学則に定めた所定の要件を満たした者に卒業を認定する。

[カリキュラムポリシー]

1. 準学士課程の教育課程編成の基本方針

ディプロマポリシーに定めた育成する技術者像にもとづく学修成果を達成するために，一般教養科目群，専門共通科目群，専門科目群を編成する。

2. 準学士課程の科目編成，学習内容，学習方法に関する方針

2.1 一般教養科目群

ものづくりに共通した基礎的知識や能力を養成するため，講義や演習を主とした学習方法により，自然科学（数学，物理，化学など）や人文科学（英語，日本語，社会など）に関わる科目を設ける。あわせて，これら科目では普遍的に有用性を持つ能力や分野横断的能力を涵養する。

2.2 専門共通科目群

コースに共通する専門的能力を養成するため，演習や実習を主とした学習方法により，情報リテラシーや工学基礎(デザイン，ものづくり)に関わる科目を設ける。あわせて，これら科目では専門分野に係る横断的能力を涵養する。

2.3 専門科目群

コース毎の専門的能力を養成するため、講義や演習に加えて実習や実験を含む学習方法により、核となる分野に関する知識・技術に関わる科目を編成する。また、他分野の専門知識を学ぶことができるように専門科目を配当する。

3. ディプロマポリシーとの対応

3.1 普遍的に有用性を持つ能力とそれを養成する科目

達成すべき学修成果のうち、普遍的に有用性を持つ能力と、それを育成する科目の対応を表1に示す。

表1：普遍的に有用性を持つ能力とそれを育成する科目の対応表

	能力(a)	能力(b)	能力(c)	能力(d)	能力(e)
一般教養科目群	自然科学系科目 人文科学系科目	英語,第二外国語 など			
専門共通科目群			ものづくり工学 デザイン基礎	情報リテラシー	ものづくり工学
専門科目群	校外実習など				共同教育 卒業研究など

3.2 専門分野に固有の知識・技術を身に付けるための科目

達成すべき学修成果のうち、専門分野に固有の知識・技術と、それを育成する科目の対応を表2に示す。

表2：専門分野に固有の知識・技術とそれを育成する科目の対応表

コース	固有の知識・技術	左記を育成する科目
(1)機械コース	機械の力学系 機械加工系 機械材料系 機械制御系 機械設計系	機械力学, 材料力学, 熱力学, 水力学, 等 機械工作法, 機械工作実習, 等 機械材料, 機械工学実験, 等 自動制御, 情報処理, 等 機械製図, 機械設計製図, 等
(2)電気コース	電気エネルギー系 電子情報通信系 電気・電子回路系	発電工学, 送配電工学, 電気機器工学, 等 電子工学, 制御工学, プログラミング実習, 等 電気回路, 電子回路, 電子回路設計製作実習, 等
(3)情報コース	計測・制御系 システム設計系 情報理論系 情報通信システム系	デジタル回路基礎実習, 応用プログラミング実習, 等 システム設計, 系 情報数学, 数値計算, 等 情報通信ネットワーク, 等
(4)建設コース	構造物系 環境系	測量実習, 材料学, 構造力学, 土質工学, 水理学, 都市計画, 施工管理学, 設計製図, 等 環境工学, 環境実験, 等
(5)科学コース	無機化学系 有機化学系 化学工学系 材料開発系	無機化学, 分析化学, 分析化学実験, 等 有機化学, 生化学, 有機化学実験, 等 化学工学基礎, 化学工学, 化学工学実験, 等 物理化学, 電気化学, 物理化学実験, 等

4. 学修成果の評価

全ての科目はシラバスに明示した学修到達目標の達成を確認するため、試験、小テスト、レポート等を用いて総合的に評価している。このことから、上記の表に明示した各科目群に含まれる科目の合格により、ディプロマポリシーに掲げた学修成果を達成したものと見なす。

[アドミッションポリシー]

1. 求める人物像

阿南工業高等専門学校は、核となる分野に関する専門知識を社会の中で実践的に活用できる可能性をもつエンジニアの育成をめざしている。そのために必要な次に関する素養を持つ人物を求めている。また、4年次編入学においてもこれに準じる。

- (a) エンジニアになるための責任感と倫理観
- (b) 知識・技能を身につけ、問題を解決する能力
- (c) 豊かなコミュニケーション能力
- (d) 主体性を持って多様な人々と協働し、学習する能力

2. 入学者選抜の基本方針

2.1 推薦による選抜

学校長が推薦する者で、将来エンジニアになろうという意志が極めて強く、かつその適性を備えていると認められる者を受け入れるために実施する。

2.2 学力による選抜

エンジニアになるための基礎学力を有し、かつ将来エンジニアになろうという意思を持つ者を受け入れるために実施する。

2.3 帰国生徒特別選抜

将来エンジニアになろうという意志が極めて強く、かつその適性を備えていると認められる者を受け入れるために実施する。

2.4 編入学

エンジニアになるための基礎学力を有し、将来エンジニアになろうという意志が極めて強く、かつその適性を備えていると認められる者を受け入れるために実施する。

3. 求める人物像の素養を評価する入学者選抜方法

以下の表に示す方法により素養を評価し、求める人物を選抜する。

選抜	選抜方法	素養(a)	素養(b)	素養(c)	素養(d)
推薦選抜	推薦書	○			
	調査書	○	○	○	○
	面接			○	○
学力選抜	学力検査	○	○		
	調査書	○	○	○	○
帰国生徒 特別選抜	学力検査		○		
	成績証明書 (調査書)	○	○	○	○
	小論文		○		
	面接			○	○
編入学者選抜	学力検査		○		
	調査書	○	○	○	○
	面接 (口頭試問)		○	○	○

専攻科のポリシー

アドミッションポリシー

1. 求める人物像

専攻科は、専門分野における確固たる知識を基盤に、幅広い工学分野において、その知識を創造的かつ実践的に活用できる可能性をもつエンジニアの育成をめざしている。そのために必要な、次のような素養を持つ人物を求めている。

- (a) 国際人としての教養
- (b) 社会・自然への責任感と倫理観
- (c) 知識・技能を身に付け、問題を発見・解決する能力
- (d) 幅広いコミュニケーション能力
- (e) 主体性を持って多様な人々と協働して学習する能力
- (f) 「ものづくり」につながる創造的思考力

2. 入学者選抜の基本方針

2. 1 推薦による選抜

高等専門学校在学中に優秀な成績を修め、かつ、国際人としての教養があるとして学校長が推薦する者で、自分の専門分野への関心と明確な目的意識を持っている者を受け入れるために実施する。

2. 2 学力による選抜

数学，英語に関する基礎学力の上に，自分の専門分野の基礎的知識と学習能力を持っている者を受け入れるために実施する。

2. 3 社会人特別選抜

責任感と倫理観を持ち向学心に燃える社会人で，国際人としての教養があり，自分の専門分野への関心と明確な目的意識を持っている者を受け入れるために実施する。

2. 4 AOによる選抜

国際人としての教養と基礎学力があり，自分の専門分野への強い関心と学習意欲，表現力，コミュニケーション能力を持っている者を受け入れるために実施する。

3. 入学者選抜方法における評価項目と求める人物像 (a) ～ (f)との関連

以下の表に示す方法により素養を評価し，求める人物を選抜する。

入学者選抜方法	評価項目	素養 (a)	素養 (b)	素養 (c)	素養 (d)	素養 (e)	素養 (f)
推薦選抜	推薦書		○				○
	調査書			○		○	
	TOEICスコア等	○			○		
	面接試験		○		○		○
学力選抜	筆記試験			○		○	
	調査書			○		○	
	TOEICスコア等	○			○		
	面接試験		○		○		○
社会人特別選抜	推薦書		○				○
	筆記試験	○		○		○	
	調査書			○		○	
	TOEICスコア等	○			○		
	面接試験		○		○		○
AOによる選抜	自己推薦書		○			○	○
	調査書			○		○	
	TOEICスコア等	○			○		
	面接試験		○		○		○

カリキュラムポリシー

1. カリキュラムの設計方針

ディプロマポリシーに掲げる能力を育成するために、専攻科のカリキュラムは次のような方針に基づいて編成している。

- (1) 国際人としての教養と社会・自然への責任感および倫理観を育成するため、共通必修科目として「英語」、「技術者倫理」、「比較文化論」、「環境政策論」等の一般科目を設ける。
- (2) 数学・自然科学・情報技術を利用しながら技術課題を解決できる能力を育成するため、「線形代数論」、「解析学」、「情報処理演習」を専門共通科目又は専門科目として設ける。
- (3) 社会が要求している問題を見出し、かつ幅広いコミュニケーション能力を育成するため、1年次に最長3ヶ月間のインターンシップ期間を設ける。また、学協会等での発表を課すことにより、その準備プロセスも含めて論理的な記述・討論や口頭発表の能力を涵養する。
- (4) 継続して専門技術や知識を学習する習慣、及び自律的かつ柔軟な課題解決能力を育成するため、「特別研究」を設ける。さらにチームで複合的な技術開発を進められる能力を育成するため、専門分野の異なる学生と共同で課題解決を行う「創造工学演習」を設ける。
- (5) 「ものづくり」を重視し、必要なデザイン能力を身に付けるため、各コースの専門に応じた「工学実験」を設ける。
- (6) 幅広い分野の知見を取得し、先端技術情報を知るため、「創造設計工学演習（副専攻）」と「創造工学セミナー」を設ける。

2. 学習方法・学習内容に関する方針

(1) 人文科学，社会科学系科目群

講義を主とした学習方法により、人文科学（英語，比較文化論，技術者倫理など）や社会科学（環境政策論など）に関わる科目を編成する。これらの科目の学習を通して、技術者として必要な教養や責任感などを涵養する。

(2) 数学・自然科学・情報技術科目群

講義や演習を主とした学習方法により、数学（線形代数学，解析学など），自然科学（統計熱力学，物理学特論など），情報技術科学（シミュレーション工学など）に関わる科目を編成する。これらの科目の学習により，専門分野を学ぶ上で必要な基礎的知識を涵養する。

(3) 専門分野群

講義を主とした科目（流体の力学，電気デバイス工学，応用構造力学，有機合成化学など）と、演習を主とした科目（創造設計工学演習，創造工学演習など），実験を主とした科目（機械システム工学実験，電気電子情報工学実験，建設システム工学実験，応用化学実験など），実習を主とした科目（インターンシップ），及び創造技術システ

ム工学特別研究で編成する。これらの科目の学習を通して、技術者が必要とする知識・技術を涵養する。

3. 学修成果の評価

全ての科目はシラバスに明示した学修到達目標を達成するために、試験、小テスト、レポート等を用いて総合的に評価している。従って、上記表に示した各科目の合格により、ディプロマポリシーに掲げた学修成果を身につけたと見なす。

ディプロマポリシー

1. 育成する技術者像

核となる分野に関する確固たる知識をベースとしてもち、その方法論・実践論を幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる可能性をもった技術者

2. 身に付けるべき学修成果

本校専攻科課程の学生は、修了までに普遍的に有用性を持つ資質・能力、並びに、専門分野に固有の知識・技術として、以下の学修成果を身に付けるものとする。

2. 1 普遍的に有用性を持つ能力（両専攻共通）

(A) 国際人としての教養を身につけ、人間社会や自然環境に対して責任感及び倫理観を有する。

(B) 社会が要求している問題を見出し、数学・自然科学・情報技術を利用しながら問題解決を計画的に遂行できる。

(C) 日本語で論理的に記述・討論ができ、専門分野において国際的にコミュニケーションがとれ、表現力豊かに口頭発表ができる。

(D) 継続して専門技術や知識を学習する習慣を身につけ、複合的な技術開発を進められる能力を有する。

(E) 「ものづくり」を重視し、技術的構想や創造的思考を実現させるためのデザイン能力を有する。

2. 2 専門分野に固有の知識・技術

【創造技術システム工学専攻】

(1) 機械システムコース

力学、加工、材料、制御、機械設計などの機械工学分野の研究課題に取組み、成果を当該分野の学協会等で発表をすることができる。

(2) 電気電子情報コース

電気・電子工学、情報工学などの電気電子工学分野の研究課題に取組み、成果を当該分野の学協会等で発表をすることができる。

(3) 建設システムコース

構造、材料、都市計画、防災工学などの土木工学分野の研究課題に取組み、成果を当

該分野の学協会等で発表をすることができる。

(4) 応用化学工学専攻

有機・無機化学，材料，化学工学，環境化学，物理化学などの応用化学分野の研究課題に取り組み，成果を当該分野の学協会等で発表をすることができる

【構造設計工学専攻】

機械工学，土木工学等の構造設計工学分野の研究課題に取り組み，成果を当該分野の学協会等で発表をすることができる。

【電気・制御システム工学専攻】

電気・電子工学，情報工学等の電気電子工学分野の研究課題に取り組み，成果を当該分野の学協会等で発表をすることができる。

3. 修了要件

専攻科課程は，上述した育成する技術者像を踏まえて必要な学修成果を身に付けた上，学則で定められた所定の要件を満たした者に修了を認定する。

*入試形態(URLは阿南高専HPより引用)

[令和3年度学生募集要項・入学案内【改訂版：詳細】](#)

[令和3年度本科4年次編入学生募集要項【詳細】](#)

[令和3年度専攻科学生募集要項](#)

*試験状況及び偏差値や倍率(URLは阿南高専HPより引用)

偏差値 62

本科試験公開情報なし

[入学者数・編入学者数](#)

[令和3年度編入学志願者願書受付状況表](#)

[令和3年度編入学生選抜検査合格者](#)

[令和3年度専攻科学生推薦による選抜検査出願状況 \(令和2年5月1日 現在\)](#)

[令和3年度専攻科学生学力による選抜検査出願状況 \(令和2年5月22日 現在\)](#)

[令和3年度専攻科学生A〇による選抜検査出願状況 \(令和2年10月1日 現在\)](#)

[令和3年度専攻科学生推薦による選抜検査合格者 \(令和2年5月21日 発表\)](#)

[令和3年度専攻科学生学力による選抜検査合格者 \(令和2年6月10日 発表\)](#)

[令和3年度専攻科学生A〇による選抜検査合格者 \(令和2年10月22日 発表\)](#)

*卒業後の進路状況(URLは阿南高専HPより引用)

[平成29～令和元年度卒業・修了生の進路先](#)